

【中山間地域研究センターだより】

## 中国山地でのニホンジカの捕獲実証モデルの構築

— 広島県から拡大するシカの増加を阻止する —

中山間地域研究センター

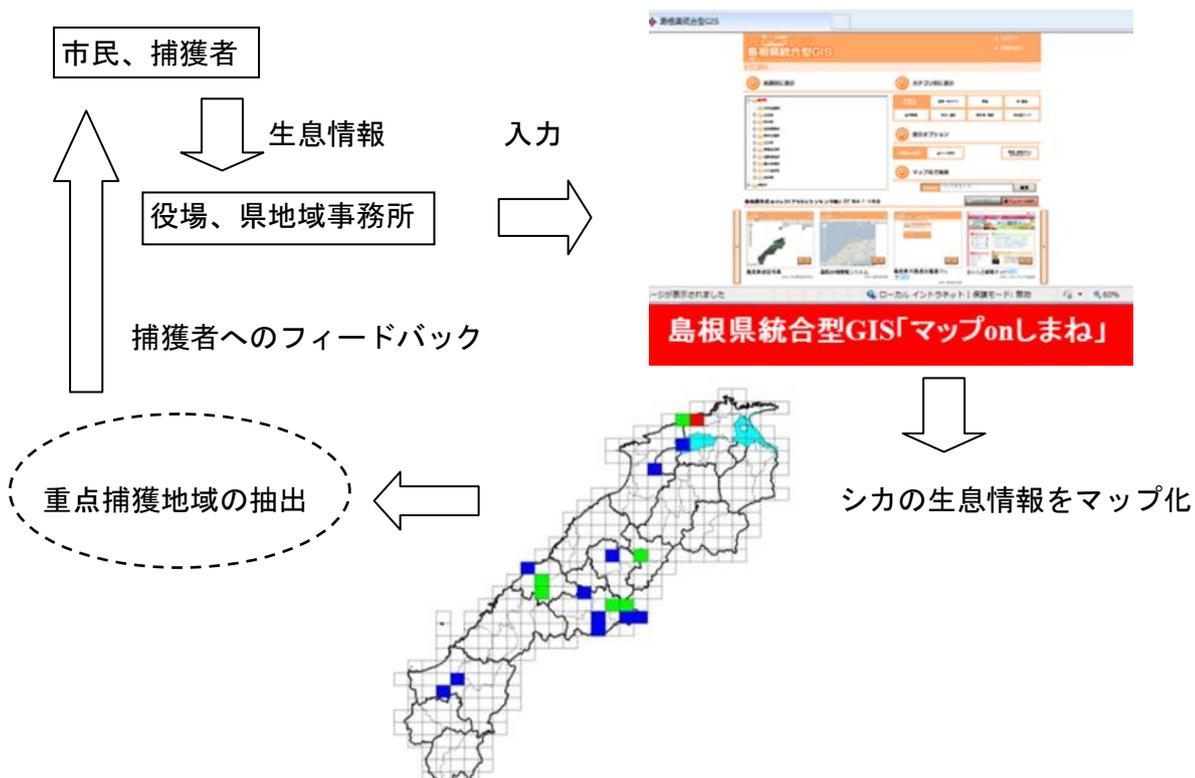
### ■研究の背景・目的

平成 26 年に鳥獣保護法の大規模な改正が行われました。全国的に増加しているニホンジカ、イノシシ等による自然生態系への悪影響や農林業への被害が深刻化していることから、捕獲の促進と担い手の育成を目的に、鳥獣の「保護」に「管理（生息数を適正な水準に減少させる）」を加えました。都道府県は、指定鳥獣捕獲等事業による指定管理鳥獣捕獲等事業者制度を導入し、捕獲事業者として猟友会の他にも自然環境コンサルタントや警備会社などの参入を促して、捕獲の担い手の育成・確保につなげることが可能になりました。また、わな猟免許の取得が 18 歳に引き下げられます。

本県の中国山地では、広島県から分布を拡大したニホンジカが県境の飯南町や邑南町を中心に増加傾向にあります。環境省によると、中国山地でのシカの生息数（平成 26 年）は、島根県 45～2,998（中央値 245）頭、広島県 21,778～202,273（中央値 52,186）頭と推定されています。シカが増加すると、農林業への被害発生と共に、森林生態系へも著しい悪影響を及ぼすため、増えすぎないように捕獲による個体数管理が必要です。しかし、本県の中国山地にはこれまでシカの生息をほとんど認めなかったことから、生息情報も十分に把握されておらず、また捕獲者には十分な捕獲技術が備わっていません。そこで、当センターでは、平成 27 年度から 5 年計画で「中国山地でのシカの捕獲実証モデルの構築」を行います。まず、目撃等の生息情報を GIS による一元管理によって集積して、重点捕獲地域を明らかにします。そして、最新の捕獲装置や技術による捕獲を実践して、現地の捕獲者への技術移転を図ります。

### ■研究の方法

1. 島根県統合型 GIS「マップ on しまね」を使った生息情報の一元的管理システムの構築



島根県統合型 GIS「マップ on しまね」を使ったシカの生息情報の一元的管理システムを構築し、生息密度マップの作成による視覚化によって、中国山地での重点捕獲地域を抽出して公開します。なお、このシステムは、全県（以前から生息する島根半島の出雲市を除く）を対象とします。

## 2. ICT（情報通信技術）システムを用いた捕獲装置による効率的な捕獲の実証

広島県境に接して、シカの侵入の多い飯南町と邑南町をモデル地域として設定します。ライトセンサーなどによって、冬期に餌場となってシカが集まる場所に Web 上のライブ映像による遠隔監視・操作が可能な ICT システムを用いた捕獲装置を設置して、効率的な捕獲を実証します。また、安価で自作が可能な捕獲檻を試作して、捕獲性能や耐久性を検討します。

## 3. 最新の捕獲技術による捕獲の実証

モデル地域において、シャープシューティング（誘引狙撃法）を試行します。これは、ライトセンサーや自動撮影カメラを使って、シカの出没地点を把握し、定期的に誘引餌を置いてシカを集めて、小型ライフル銃などで出沒個体をすべて捕獲する方法です。餌の置き方（季節、餌の種類、人、配置時間）、爆音機による銃声音への慣れ度、群れの捕獲順序などを検討します。

### ■研究成果の活用

中国山地でのシカの生息情報を一元的に集積して生息密度マップを作成すれば、県境付近の重点捕獲地域を明らかにできます。また、ICT システムを用いた捕獲装置の導入などによるシカの効率的な捕獲を実証できれば、現地の捕獲者への技術移転を図ることができます。そして、現地の捕獲者が県境付近の重点捕獲地域での効率的な捕獲を継続して実践できれば、本県の中国山地でのシカの増加を抑えることができ、農林業等への被害発生リスクの低減が可能になります。



飯南町で生息を確認したメスジカ（自動撮影カメラ）



邑南町で発生したネムノキの樹皮食害